

北海道生物多様性保全 ダイアログ



～ 保全計画改定への期待 ～

北海道では、2023年度末に北海道生物多様性保全計画を改定する予定です。改定にあたり、北海道の自然環境をめぐるさまざまな課題や取り組みを知り、私たちは自然とどのように向き合っていくべきかを各分野の専門家とともに考えていく連続セミナーを開催します。

第5回 生物多様性と農業・土地利用—食料生産との両立に向けて

2022年 10月26日（水）18:00～20:00 / オンライン

第5回は、北海道の基幹産業でもある農業・畜産業と生態系との共生を考えます。農業・畜産業は生態系サービスにより成り立っていますが、土地利用や生産活動による自然環境への負荷により、時に軋轢も生じます。北海道を特徴づける農業と生物多様性の共生に向けて、どのような戦略が求められるのでしょうか。本計画の策定にあたり、その両立に向けた具体的な手法や地域づくりの動きについて専門家にお聞きします。

講演1 「農業と野生動物：自然生態系の力を利用した持続的農業の可能性」

講師 赤坂 卓美 氏（帯広畜産大学 助教）

講演2 「北海道の農業と生物多様性保全計画への期待」

講師 関 健志 氏（公益財団法人日本生態系協会 専務理事）

モデレーター

長谷川 理 氏（NPO法人エンヴィジョン環境保全事務所）

対象：北海道の自然環境に関心のある方、

一次産業や観光など生態系サービスにより地域経済を担う方 150名

申込：申込フォーム（<https://epohok.jp/event/15703>）をご利用いただくか、

下記メールアドレスまで〈氏名、ご所属、連絡用メールアドレス〉をご記入の上、お申込みください。

問い合わせ：北海道環境パートナーシップオフィス（担当：福田）

TEL：011-596-0921 E-mail：epoh-webadmin@epohok.jp

主催：北海道環境パートナーシップオフィス、

北海道生物多様性保全活動連携支援センター（HoBiCC）、北海道



申込フォームは
こちら



赤坂 卓美 氏（帯広畜産大学 助教）

国立大学法人帯広畜産大学助教。北海道大学大学院農学院博士課程修了。「人の生活の発展と生物多様性維持の両立」をテーマに、景観・空間生態学や保全生態学的な視点を主軸に、生物多様性保全のみでなく、農業、防災、開発と自然資本の関係について研究を進めている。現在は、持続可能な農業に対する生物多様性の価値の解明にも注力している。



関 健志 氏（公益財団法人日本生態系協会 専務理事）

（公財）日本鳥類保護連盟研究員として、キングマヘンドラ自然保護財団（ネパール）に2年間派遣される。その後、主任研究員として、主に野生鳥類、哺乳類の調査研究に従事したのち、1991年に、サウジアラビア野生生物救護センターに派遣。公益財団法人日本生態系協会事務局長を経て、2019年に専務理事に就任。2004年より公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会の事務局長を兼任し、環境保全全般に関する業務に従事している。



参加者の皆さんからいただいたご意見
やご質問をもとに、ゲストとの対話を
深めていきます！

長谷川 理 氏

（NPO法人EnVision環境保全事務所 主任研究員）

神戸市出身。北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程修了・博士（地球環境科学）。鳥類を中心に、希少種から外来生物まで様々な野生動物の調査研究や保全活動に従事。道内各地でトークイベントや市民フォーラムなどの普及啓発活動を企画・開催する。趣味は犬の散歩。2021年よりEPO北海道の運営協議会委員。

今後のダイアログ・共催事業の開催予定

- ・「再生可能エネルギーと生物多様性保全の両立」など、企画を検討しています。皆様のご参加をお待ちしております！
- ・これまで開催してきた報告やアーカイブは、EPO北海道ウェブサイトよりご覧ください。
(<https://epohok.jp/act/info/partnership/p2/biodiversity>)



開催報告はこちら